

カルテ資料

[ホール ～舞台機構、設備の名称解説～]

舞台機構、設備の専門用語解説

【機構】

1. 緞帳

舞台と客席とを仕切る幕で、舞台の最前部に設置されるもの。
機構の種類による分類(飛ばし上げ、畳み上げ、巻取り、定型絞り上げ、変形絞り上げ、引割等)と表地の種類による分類(緞織、填糸(フック織)、紋織り(既成柄、ドレープ)、アップリケ等)とがある。大規模な劇場では複数の緞帳を配置して、演目の種類や使用するタイミングによって使い分けられている。

2. 暗転幕

場面転換の場合に使用する幕で、緞帳のすぐ後ろにあることが多い。場面転換が大掛かりな場合暗転(舞台を暗くして次の舞台準備を行う)では難しい場合に、客席を暗転状態のままスムーズに転換を行うために使用される。

3. 一文字幕(いちもんじまく)

カスミ幕などとも言う。
舞台上部、間口いっぱいに設置される、舞台上部を客席から隠すための横長の幕。
プロセニウムアーチのすぐ後ろ(もしくはアーチ自体)に設置される場合は特に『水引幕』と呼ばれることが多く、その場合は通常裾端部にフレンジが付く。

4. 袖幕

舞台両袖を隠すための幕。上手(かみて)・下手(しもて)の対で設置される。
プロセニウムアーチのすぐ後ろ(もしくはアーチ自体)に設置される場合は特に『源氏幕』と呼ばれることが多く、その場合は通常裾端部にフレンジが付く。
また、舞台間口方向ではなく奥行き方向に設置される場合は『東西幕』と呼ばれる。

5. 中割幕(なかわりまく、なかわれまく)

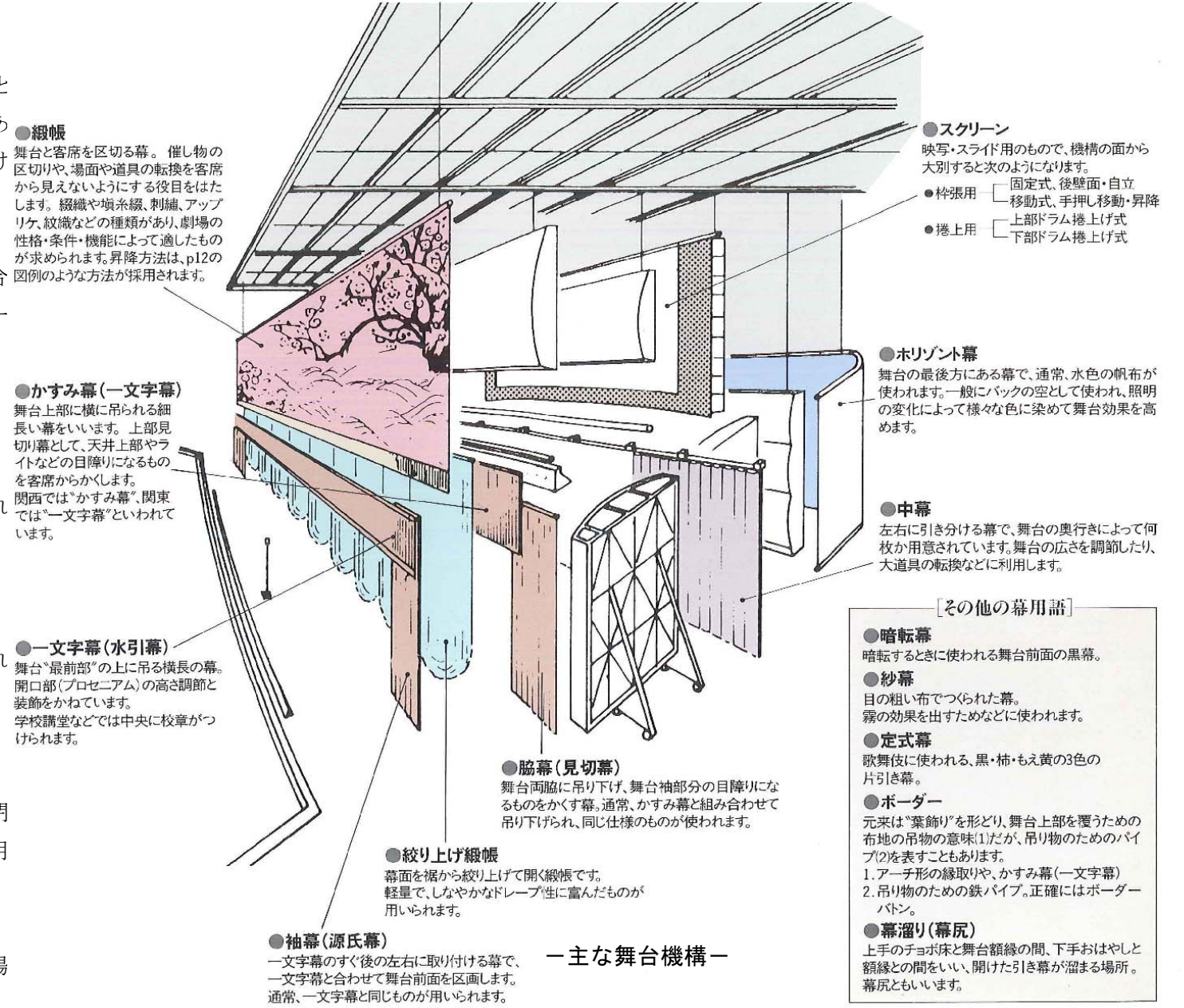
舞台両袖から舞台中央まで開閉する幕。開いている状態では袖幕と同じ機能を持ち、中央まで閉じた状態では舞台奥行き方向を仕切り、幕より後ろのスペースで場面転換を行うなどの目的で使用される。

6. 大黒幕(おおぐろまく)・バック幕

背景を黒くする場合に使用する黒い幕で、舞台後部に設置される。一枚幕の場合と、引割幕の場合とがある。

7. ホリゾン幕

舞台後部に設置され、舞台照明(ホリゾンライト)の照射によって背景を作る為に使用される。大規模な劇場では複数設置されることもある。白を基本とした帆布(はんぷ)地で製作されることが多いが、スクリーン地を用いてスクリーン兼用(巻取り昇降式)とするケースもある。近年ではリア投影プロジェクターに対応するためリア用軟質スクリーン地を使用するケースも増えている。



8. スクリーン

映写用の白い幕で、材質は PVC が主流。ホワイト、ビーズ等の種類があるが舞台ではホワイトの無孔がほとんど。劇場では最後列に設置される場合を除き、サウンドスクリーン(有孔)が使用されることが多い。

鉄製の枠に紐やバンドで固定させ、枠ごと昇降させる「張り込み式・飛ばし上げ昇降」が多く、天井高に余裕の無い小規模な舞台ではスクリーン地を金属製パイプドラムに巻き取る方式も採用される。(ドラム巻き上げ昇降式、巻取りドラム床埋込・バトン引き上げ昇降式)

また、スクリーン画面の周囲に配置される幕をカットマスクと呼ぶ。上部を天マスク、下部を地マスク、両サイドを袖マスクなどと呼び、固定のほか昇降/開閉の場合もある。カットマスクとは別に、スクリーン全体を覆う「バリエブルカーテン(バリエカーテン、スクリーンカーテン)」を設置する場合もある。

9. 吊物バトン (美術バトン、道具バトン、空(から)バトン)

天井付近から床付近までを昇降する金属製パイプ。看板や松羽目などの大道具や、旗などの小道具、諸幕類を吊り込むのに使用する。

近年では積載物の重量が増える傾向にあり、それに対応するためパイプをはしご(ラダー)状に組んだり、トラス状に組んだりして強度を上げることも行われている。

10. 照明バトン (ライトバトン)

構造は吊物バトンと同じだが、照明器具専用に設置されたものを指して言う。通常、吊り下げる照明設備(器具)の名前で第1ボーダーライト(バトン)などと呼ばれる。

11. 音響反射板 (反響板)

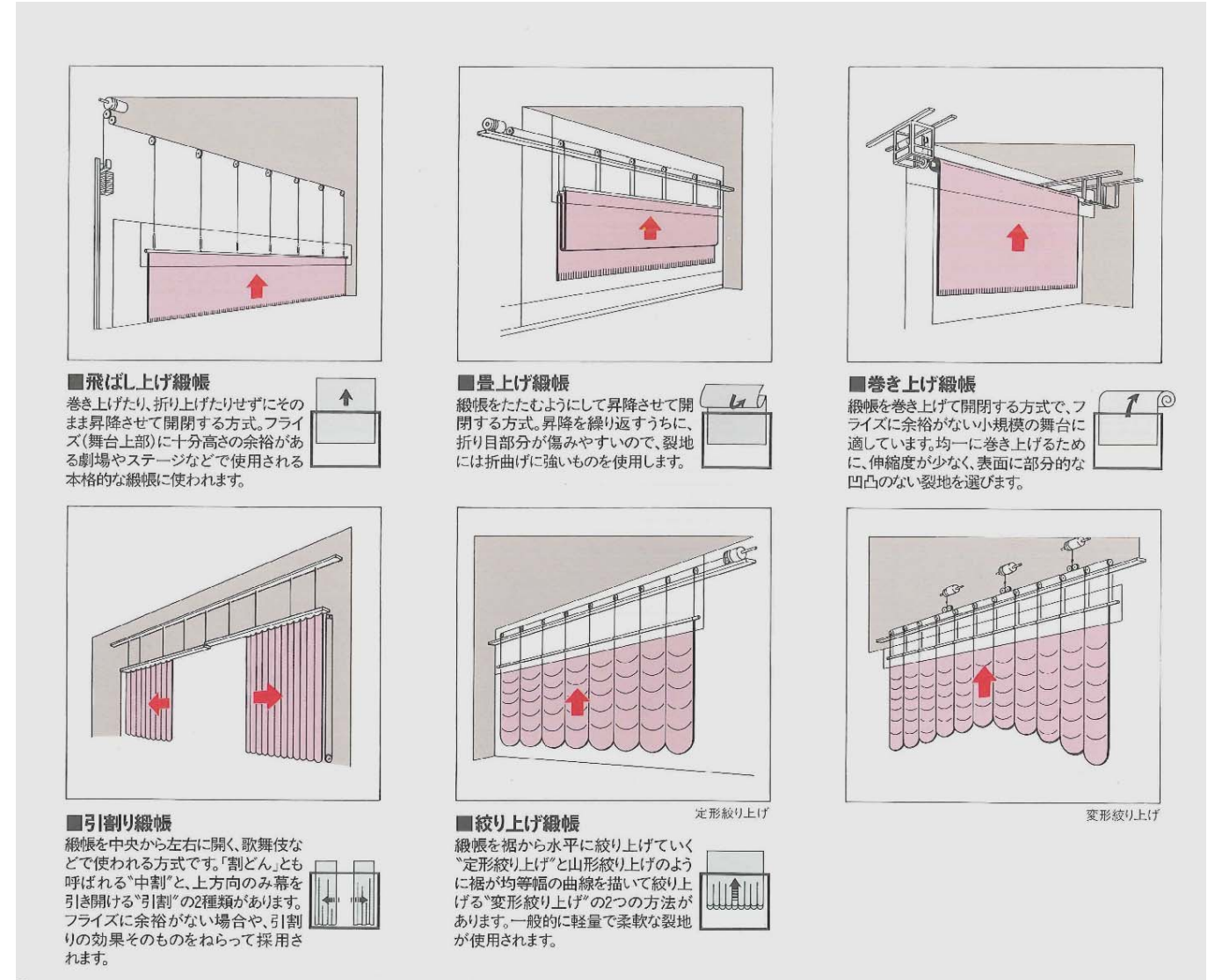
電気音響設備を通さない音楽の演奏の際に、舞台内部の三方(正面、天井、側面)を覆って音響効果を上げるための設備。

設置箇所により、正面反射板(正反=しょうはん、せいはん)、天井反射板(天板=てんはん)、側面反射板(側板=そくはん)と呼ばれる。建築形状等の制約により、作動方式も昇降から変角までを全て電動で行うもの、変角については吊物バトンに片側を手動で吊り込んで昇降させて行うもの、床を電動でスライドして動くもの(自走式)などがある。

12. 迫舞台 (せり)

舞台床の一部または全部が昇降する機構。通常は奈落から演者や大道具が移動(出入り)するために使われるが、舞台床より高くして平台代わりに使用するタイプ(ひな段迫り)や、客席床の舞台に近い部分を昇降させ、客席より低くしてオーケストラピットを作る機構(オケ迫り)など、様々な種類がある。歌舞伎や日本舞踊で使用される花道に設けられた小ぜりは「スッポン」と呼び、亡霊などこの世のものでないものを演じる役者のみを使用する。

- 広いステージには「飛ばし上げ」
- 小規模の舞台に適した「巻き上げ」
- 日本の演劇でよく使われる引き割りなど空間の広さや性格によって5つの方式がある。



一幕の演出

【照明】

1. ボーダーライト

舞台上部に設置される。舞台全体を均一に明るくする為の灯具で、地明かり(ベース明かり)や舞台の雰囲気をつくる為に使用する。連続灯具の形状を持ち、複数ある場合は舞台上部から第一ボーダー、第二ボーダー、のように数える(以下同じ)。

2. サスペンションライト

舞台上部に設置される、バトンパイプに吊下げられたスポットライト群を、バトン1列ごとにまとめて指す。人物や舞台装置に立体感や奥行きを作り出す。通常、レンズ形状の異なるスポットライトを組み合わせて使用し、様々な上部明かりを作り出す。灯具へはフライダクトと呼ばれるコンセントダクトにより給電されるので、個々の灯具の移動・調整を容易に行うことができる。

3. ホリゾンライト

舞台背面のホリゾン幕またはホリゾン壁を照射し、照明による演出効果を作り出す。バトンに吊り下げて上部から照射する器具をアップーホリゾンライト、舞台床面に置いて下から照射する器具をローアホリゾンライトと呼び、両者を対で使用。カラーフィルターによって光に色を付けることで、ホリゾン幕を用いて地平線や青空、夕焼け等を表現する。

4. 天井反射板ライト

天井反射板内に埋め込まれたライトで、天井反射板セット時に地明かりを作るために使用する。

5. プロセニウムサスペンションライト

プロセニウムアーチ付近に設置されるサスペンションライト。プロセニウムライト、プロサス、トップサスなどとも言う。

6. フロントサイドライト

客席両側壁面から舞台面を照射するスポットライト群。シーリングライトと共に前からの明かりを作り、舞台上の演者に影が出来ないようにする。

7. シーリングライト

客席上部に舞台間口方向に設けられたスポットライト群。フロントサイドと共に前からの明かりを作る。複数ある場合は舞台上部から第一シーリング、第二シーリング、のように数える。バトンに設置する場合と、シーリング室内に設けられたパイプに固定する場合とがある。前者の場合、構造上はサスペンションライトと同じである。

8. ピンスポットライト

客席後部正面に設置し、舞台上の特定の演者だけを照射する。